

10月4日

2018年
(平成30年)

木曜日

第19177号(日刊)

土、日曜・祝日は休刊

Metal & Technology

鉄鋼新聞

桂スチール

新BH溶接機3台導入

5億5千万円投資 省力化・安全性を向上

ビルトH形鋼(BH)加工最大の桂スチール(本社・兵庫県姫路市、社長・三木桂吾氏)は、今期(19年9月期)設備投資の一環として来年2月までに岡山工場で溶接機を3台更新・導入する。自動化などによる省力化および生産効率・安全性向上などが狙いで、総投資額は約5億5千万円を見込む。

同社は岡山県を中心に計6工場があり、足元の月産量は7千ト。母材厚板の溶断からBHの1次・2次加工までを自社で一貫して手掛けられるのが強みとなっている。

導入する3台の溶接機について、そのうち2台は更新投資だが、溶接母材を反転する工程を自動化するため、安全性・生産効率の向上が期待できる。もう1台は増設で、日本で初めてとなるイタリア製溶接機を導入する。同社はBHだけでなく、

橋梁向けなどの需

要も捕捉できるように
拡販を進めている。来
年3月以降の投資につ
いては今後検討を進め
ていく。

月産量は、前々期は
6千トペースだった
が、好調な需要を要因
に前期は月産量が7千
トペースにまで増加。

また、前期売上高は前
々期比で50%程度増と
なる約145億円を見
込む。鋼材価格の値上
がりおよび数量増が増
収に寄与した。投資費
用などもあり、収益は
前期並みとなる見通

同社は昨年には岡山
第2工場(備前市吉永
町)で、大型BHを一
貫して生産するため、

イタリア製加工機を導入。これまで同社で一貫加工できるBHは、ウェブ高1500×フレンジ幅800が最大だったが、最大2500×1200まで一貫加工できる体制を整えた。このほか、今年3月には大型開先機、そして9月には自動仕口製造機も稼働を始めるなど、大型化対応および省力化に注力した。